

NEW YORK

ハント・スローネム

画家

🦜 パーキー (性別不詳・30歳)

鳥は創作上のパートナー、そして最良の批評家です。

マンハッタン of 巨大なアトリエで、オウムを肩に絵を描くアーティストのハント・スローネム。鳥をこよなく愛する画家の生活は、いつも鳥と共にありました。

photo_Naho Kubota text_Mika Yoshida coordination_David G. Imber





長年連れ添う相棒、オウムのパーキーを肩に。右手に見える、色鮮やかなアンティークグラスのコレクションがグリーンによく映える。



をはじめ、金剛インコ、セ
オカメインコ、鳩、ムク
のマイナ、合計25羽の鳥た
のアトリエに住んでいる。





左/制作中の作品を、パーキーが肩の上からチェック。右/大きなアトリエの一角を、いくつもの鳥がごが占める。このうち最高齢の鳥は55歳！ ハントとはもう30年以上一緒に暮らしているとか。

ハント・スローネム メーン州出身。
海軍将校の父親に連れられ、世界各地で少年時代を送る。集大成となる作品集を10月に出版、12月にNYのマ
ルボロ・ギャラリーで個展の予定。

パーキー 30歳。オウム、性別は不
明。ダイエットコークが大好きで、
ハントが持ったグラスから飲みたが
る。絵に関しては手厳しい批評家だ。

PETS FOR PEACE

ハント・スローネムと鳥との最初の触れ合いは、ハワイで過ごした幼少時代にさかのぼる。ポーチで眠る少年ハントの周りにはいつも野生の鳥たちが舞い下り、その鳴き声を耳にしながら、夢の世界に遊んでいたという。

そんな彼が描くモチーフは、圧倒的に鳥が多い。そしてその制作を見守るのも、やはり鳥。「絵を描くというのは孤独な行為だ。その間一緒にいてくれる友として、鳥は最適なんだ」と語る。そもそもあなたにとって鳥の魅力とは？「まず、賢いこと。彼らは3歳児と同じIQを持つという。また多くの動物と違い、同じ相手とずっと連れ添うのも素晴らしい」

ここににいる鳥のほとんどが、捨てられかけたり虐待されているのを救出されたレスキューバード。

草の根ネットワークや愛護団体から譲り受けて大切に育てている。アメリカでは鳥に限らず里親になるための適性審査は非常に厳しい。精力的にレスキュー活動をしている彼でさえ、審査で落とされたことがあったそうだ。

一羽一羽かけがえのない鳥たちをハントは肩に乗せ、キャンバスに向かう。筆を休めては絵の出来具合を鳥に問う。「良くないときは『ビュ……』って鳴くね。じゃあ傑作のときは？」「ビビビ——！！」って叫ぶんだよ（笑）

そうそう、鳥にまつわる思い出がもう一つある。彼は子供のころに日本を訪れた際、神社でヤマガラがおみくじを引くのを見て、深い感銘を受けた。「私が作品の出来を鳥に尋ねるのも、あの鳥みくじがルーツにあるんだろうね」、そうほほ笑む画家であった。



左/ヴィンテージ家具と植物に囲まれ、くつろぎのひととき。ちなみにルイジアナ州に所有する自邸には野生の鳥がやってくるという。右/飲み物を狙うパーキー。人なつこくて、茶目たっぷり。

Casa

8

2011 vol.137
AUGUST
定価 880円

いっしょに
暮らしたい
わん!

やっぱり、 動物と 暮らしたい!

犬との新しい暮らし方
猫の人気ブログ ilove.cat
小鳥の来る庭
ハムスターが食べる家を作る
ハリウッドセレブのペットたち
動物と建築

蒼井優のかき氷
沖縄スペシャル!

ヴェネチアビエンナーレ
まだ間に合うぞ、速報2011

